

TEAM YUKA BASKETBALL CAMP IN USA 2005

キャンプ開催主旨：

- ・ バasketボールを通し、将来世界を舞台に活躍できる国際人を育てる
- ・ 夏休みに海外で異文化体験をし、貴重な思い出を作る
- ・ 一流の指導者に一流の教育を受けBasketボールのスキル向上をはかる

キャンプ内容：

- ・ 原田裕花、参河 紀久子、加藤貴子ら世界で実績を残した元選手と海外で共に過ごし、時間を共有し、Basketボールだけでなく生き方そのものの価値観を学ぶ
- ・ 本場アメリカで数々の実績を残した指導者の下、Basketボールを体験、指導を受ける
- ・ Basketボールを通じて国際交流をはかる
- ・ アメリカならではの文化体験をし、習得する

キャンプ開催場所：スワースモアカレッジキャンパス

(アメリカ合衆国ペンシルバニア州フィラデルフィア郊外)

コーチングスタッフ：第一期、二期：原田裕花 第一期：加藤貴子 第二期：参河紀久子

開催期間：第一期・2005年7月24日(日)～8月1日(月)8泊9日(機内1泊を含む)

第二期・2005年7月31日(日)～8月8日(月)8泊9日(機内1泊を含む)

募集人数：第一期、第二期 各12名

参加対象者：12歳～17歳の女子Basketボール経験者

企画主催：京王観光株式会社

日程表(予定)：

【第一期】

- 1日目・成田集合・出発、ニューヨーク着、バスにてキャンプ地へ移動、到着後チェックイン
- 2～3日目・Basketボールキャンプ参加
- 4日目・Basketボールキャンプ参加、WNBA観戦(Houston対New York)
- 5日目・Basketボールキャンプ参加
- 6日目・Basketボールキャンプ最終日、フィラデルフィア市内観光、交流ディナー
- 7日目・バスにてニューヨークへ移動、ニューヨーク観光、チェックイン(宿泊先未定)
- 8日目・ニューヨーク発
- 9日目・成田空港着、解散

【第二期】

- 1日目・成田集合・出発、ニューヨーク着、バスにてキャンプ地へ移動、到着後チェックイン
2～5日目・バスケットボールキャンプ参加
6日目・バスケットボールキャンプ最終日、フィラデルフィア市内観光、交流ディナー
7日目・バスにてニューヨークへ移動、ニューヨーク観光、WNBA 観戦 (Seattle対New York) チェックイン (宿泊先未定)
8日目・ニューヨーク発
9日目・成田空港着、解散

キャンプスケジュール (予定):

7:30	朝食	15:00	試合形式 <午後の部>
8:30	ミーティング、ウォームアップ	16:00	自由時間
9:00	個別ステーション指導	17:00	夕食
10:00	特殊スキル練習	18:00	スキルコンテスト、講義
11:00	試合形式 <午前の部>	19:00	試合形式
12:00	昼食	21:00	ミーティング
13:00	個別ステーション指導	21:30	自由時間
14:00	チーム練習	22:30	就寝

参加費用 (1名): 390,000円 (航空券、宿泊、全食事、米国内移動、キャンプ、

文化交流やスポーツ観戦などの課外活動、記念品、保険を含む)

協力: アプロコム、KIKOYUKA WORLD、京都バスケットボール協会、
BS日テレ スーパースポーツマガジン、フィラデルフィア日米協会、山口県バスケットボール協会
(五十音順・敬称略)

この件に関するお客様お問い合わせ先:

京王観光 立川支店 (担当: 小沢 靖)

TEL: 042-525-3991

<http://www.kingtour.com/teamyuka/>

TEAM YUKA オフィシャルホームページ

情報更新中!

<http://www.kikoyuka.com>

指導者プロフィール：

原田 裕花（はらだ ゆか）

スピーディで華麗なプレイはファンを魅了し、ゲームの流れを自在に操る華麗なボールさばきや、感性豊かなパス、難しいプレイをいとも簡単にサラリとこなしてしまうセンスの良さには、天才肌。共同石油（現ジャパンエナジー）入社と同時に日本代表入り。正ポイントガードに抜擢されるやいなや、日本代表の顔となり、90年代の日本女子バスケット界をリード。名実ともにチームの司令塔である。二度の膝靭帯断裂という大怪我にみまわれつつも見事復活。蘇った、その努力と精神力は永遠の感動を与える。1968/6/5生まれ。山口県新南陽市（現・周南市）出身。富田中学校 大分県藤蔭高校 共同石油（現ジャパンエナジー）小学校3年からバスケットボールを始め、大分県藤蔭高校ではキャプテンとして活躍。1986年、全日本ジュニアメンバーとして、アジアジュニア選手権に出場（3位）。卒業後の1986年にジャパンエナジーに入社し、全日本チームに加入。新人王を受賞。1990年から6年間にわたってジャパンエナジーの主将として、「オールジャパン優勝4回」「日本リーグ優勝3回」、「年間ベスト5賞3回」その他カムバック賞やアシスト賞などを受賞。アトランタオリンピック出場、7位入賞。現在は、スポーツキャスターとしてJOCアスリート委員会委員、バスケット解説、講演、雑誌連載など各方面で活躍中。レギュラー番組・BS日テレのスポーツ番組「スーパースポーツマガジン」。

山口県新南陽市・市民栄誉賞受賞。

参河 紀久子（みかわ きくこ、現・成住）

日本のシューターの第一人者。世界に3Pシューターがそれほど出現していなかった時代、徹底して3Pシュートにこだわる存在は異彩。流れを変える役目として起用され、ひとたびコートに現れると縦横無尽に走り回り、みずからチャンスを作り出す。

隙あらばクイックモーションから華麗にシュート。短時間の中でもきれいなアーチを描き、確実にシュートを決めるその仕事ぶりは、まさに“職人技”。1968/4/29生まれ。京都府京都市出身。松原中学校 京都明德高校 共同石油（現ジャパンエナジー）幼いころからバスケットボールを始め、中学、高校時代京都府の名門で腕を磨き、京都府では常に首位の座に。卒業後の1986年にジャパンエナジーに入社。「オールジャパン優勝4回」「日本リーグ優勝3回」「3P賞3回」受賞。1989年から全日本入り、10年前の仙台ABCで、中国から初勝利を上げる原動力となった選手。アトランタオリンピック出場、7位入賞。現在、主婦業と子育てのかたわら、自分自身でホームページ（<http://www.kikoyuka.com>）を立ち上げ、スポーツショップと提携を結んでスポーツグッズを販売。日本の戦いぶりをホームページに速報としてアップするなど、精力的に活動中。

加藤 貴子（かとう たかこ）

本能で動く“天才肌”、誰も真似できない“天性のセンス”の持ち主が彼女にもっともふさわしい形容詞。過去の女子バスケット界の中でも屈指のエースとして君臨。体全身を使って行なうフェイクやステップを自在に駆使。最後は柔らかい手首の返しでシュートに持ち込むなど、全身がセンスのかたまりのようなプレイヤー。ディフェンスにおいては、激しく当たるタイプではないが、抜群の読みの良さで、スティールやヘルプにと大活躍。また、視野が広くてアシストがうまいため、マークマンが寄ってきた時はうまくボールをさばき、チームに多くのチャンスを与えた。1971/4/12生まれ。神奈川県富岡市出身。笹下中学校 富岡高校（現・金沢総合高校） シャンソン化粧品中学時代から注目を浴び、富岡高校では常勝無敵・桜花学園高校に一矢を報い、1988年全国初制覇。1989年に日本女子バスケットボール界、史上初の高校生全日本代表選手として選出。日本代表メンバーとして選出されオリンピック（アトランタ）、世界選手権（3度）をはじめ国際大会に多数出場。1990年、シャンソン化粧品入社。1年目からエースとして活躍。「オールジャパン優勝7回」「日本リーグ優勝10回」「新人王」「MVP」「ベスト5」「ベストディフェンス賞」など数々のタイトルを受賞。引退後、元イタリアプロバスケットリーグ・セリエA「プリオロ」・日本人初の選手。その活躍を惜しまれながらも、故障から引退を表明。現在は、自らの経験を活かしてバスケットボールの更なる普及を目指し各メディアにおいて解説などやバスケットボールクリニックや講演会の活動をしている。その明るく人を惹きつける性格から幅広い層から支持を受けている。

CATHY RUSH (キャシー・ラッシュ)

- ・全米女子バスケットボール選手権 (AIAW-NCAA では当時女子スポーツは対象でなかった) 3 連覇達成
- ・全米女子バスケットボール選手権、5 年連続決勝進出
- ・生涯の指導者としての成績 149 勝 15 敗、9 割以上
- ・1975 年度、パナナム大会にて全米チームの監督として金メダル獲得
- ・米国女子バスケットボール殿堂入り
- ・ペンシルベニア州スポーツ協会殿堂入り
- ・フィラデルフィア市ビッグ5 殿堂入り
- ・デラウェアカウンティ殿堂入り
- ・監督としては初めて、米国女子バスケットボールオリンピック協会理事メンバー
- ・全米バスケットボール殿堂入り最終候補
- ・史上初めて全米中継 (対メリーランド大学) された試合で Immaculata カレッジの指揮を取った (1975 年 1 月)
- ・史上初めて女子バスケットボール試合としてマジソンスクエアガーデンでの試合 (対クイーンズカレッジ) で Immaculata カレッジの指揮を取った (1975 年 2 月)

当時、女子スポーツそのものが取り上げられない時代に、少数校 (全校生徒 800 人) でもあった女子学校が全国レベルで勝ち抜き、しかも 3 連覇を成し遂げる快挙には、おのずと認知度が高まり、全米中で注目されるようになりました。3 連覇を成し遂げた年には、史上初の全米中継及び史上初のマジソン・スクエア・ガーデンにて開催され、この結果、女子バスケットボールのみならず、女子スポーツが取り上げられるようになりました。1975 年度には、男女スポーツ優先平等制度 (TitleIX) が施行され、永遠に女子スポーツそのものに変化をもたらしました。Immaculata カレッジが成し遂げたことによる影響は少なからずあったと言われています。

キャンプ概要説明 :

キャシー ラッシュさん主催の「フューチャースターキャンプ」は、今年で 35 年目になり、100,000 以上の参加者が今まで参加しました。レベルは幅広く、全米 1 部大学に行く選手から単純にバスケットそのものをうまくになりたい選手まで幅広く参加しております。このキャンプの特徴としては、洗練されたスタッフの下でバスケットボールの基本を学び、次なるステップを目指す為の課題を明確に指示されます。指導プログラムは、長年考え抜かれたカリキュラムから成り立っており、そのカリキュラムを通じて学ぶ仕組みになっています。WNBA 選手も多数輩出しており、アテネオリンピックアメリカ代表 (金メダリスト) にも「フューチャースターキャンプ」出身の人がいます。キャンプには大学や WNBA からスカウトが来る事もあります。

主な過去の指導者 :

- ・ Geno Auriemma (University of Connecticut、コネチカット大学)
- ・ Rene Portland (Penn State University、ペン州立大学)
- ・ Debbie Ryan (University of Virginia、バージニア大学)
- ・ Tara Vanderveer (Stanford University、スタンフォード大学)
- ・ Val Ackerman (President of WNBA、WNBA 社長)
- ・ Terri Mitchell (Marquette University、マーケット大学)
- ・ Cindy Anderson – Griffin (St. Joseph's University、セイント・ジョーズ大学)
- ・ Theresa Greutz (University of Illinois、イリノイ大学)

キャンプ中地元特別内容（予定）:

- 特別講義
 - キャシー・ラッシュ氏
 - 著名人1（候補：ハーブ・マギー、シューティングの第一人者、フィラデルフィア大学監督）
 - 著名人2（候補：Archbishop Carroll 高校女子バスケットボール監督、全米ランキング入りの強豪校）
- 地元交流会
 - 地元選手、指導者との交流
 - 地元（フィラデルフィア）についての歴史講義及び観光（Immaculata カレッジ訪問）
- WNBA 観戦（ニューヨーク・リパティ戦、マジソンスクエア・ガーデンにて）
 - 選手、監督と面会など、特別企画考案中
 - 試合観戦

“TEAM YUKA” が“Future Star Camp”に参加する意義

今回のキャンプに“TEAM YUKA”が参加することに様々な要素が含まれている。競技としてのスキル向上や指導ノウハウ習得は当然ながら、その他には、アメリカにおいて女子スポーツそのものが辿って来た過程を聞き、学び、体験し、その経験を今後に活かせる。またこれを米国発祥地でもあるフィラデルフィアで経験ができ、それを吸収して日本へ継承することに今回のキャンプの意義があると感じる。

まず、これだけ世の中がボーダーレスになり、グローバル化が進むにつれて、世界を機軸に物事を考えられる次世代の人材は必要になってくる。そういった人材を育成する上でも、バスケットボールと言う共通言語を活用し、世界で実績を残してきた一流の選手と共に過ごし、同時に、世界で実績を残した一流指導者からノウハウを学び、物事を様々な方向から見て、なるべく多くの経験をさせる。更に、地元の子供達と実際に一緒にプレーをし、交流することで、米国におけるバスケットボールに対する情熱や考えを知ることができ、「文化」として捉える本質を少なくとも感じてほしい。そして更に、地元日系コミュニティと触れ合う機会では、日本人が異国においてどういった立場で何を体験しているかを少しでも知ってもらいたい。

次に、今日本のスポーツが直面する大きな課題としては、引退したスポーツ選手のセカンドキャリアについてである。現状では、限られたスポーツの中で、限られた選手しか、セカンドキャリアとしての活路が無い。今回は、女子バスケットボールに焦点をおいているが、この競技は、その限られたスポーツの部類には入らない。よって、どんなに結果を出している選手でも、純粹に今までやってきたスポーツの価値を活かして、セカンドキャリアを導くのは厳しい現状となっている。そうした状況を踏まえて、今回本場アメリカに来ることは、バスケットボール先進国におけるこうした問題の現状を知ることにより大きな収穫があると言える。同時に、今回のように指導者も一緒に参加し、若手選手と共に文化交流を体験できることも、セカンドキャリアとしての活動モデルにもなる。

そして最後に、アメリカにおける女子スポーツそのものの地位確保に大きく寄与した関係者と接し、その過程を学ぶだけでなく、現在の最高潮にあたる WNBA(米国女子プロリーグ)の選手や指導者とも会えることは、競技としての最終レベルの位置づけとしては大きな収穫がある。こういった財産が次ぎに繋がることを期待し、今度は持ち帰るだけでなく、交流が活発化し、日本との交流も盛んになることを期待したい。

よって、参加する選手には、世界で実績を残した選手、指導者と共にするメリット、指導者には、世界の最先端に立つ米国流の考え方や指導の吸収、そして、アメリカ側にとっては、歴史において導きあげてきたことをより多く共有することによって、更なる繁栄は、願ってもいない機会である。